

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第13号



熊本医学部保健学科第14回同窓会総会後記念写真（平成29年7月1日）

目次	同窓会会長あいさつ.....	1
	保健学教育部長あいさつ.....	2
	在校生の寄稿.....	2
	職場紹介.....	4
	同窓会総会議事録.....	6
	特別講演.....	7
	熊本大学卒業生表彰.....	8
	国家試験合格状況.....	8
	前年度卒業生の進路状況.....	9
	保健学科教員紹介.....	9
	同窓会会則・細則.....	10
	同窓会役員.....	11

平成30年度保健学科同窓会総会、
特別講演、懇親会のご案内

日時：平成30年6月30日（土）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

ご 挨拶

同窓会会長 橋 田 昌 弘

(帝京大学福岡医療技術学部／医学部附属診療放射線技師学校12期)

日頃より、同窓会活動へご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

平成29年7月1日に第14回総会・特別講演会・懇親会を開催し、総会へ41人（内：学生20人）、懇親会へ30人の参加を頂き心から感謝申し上げます。前回に比べ学生さんの参加は横ばいなのですが、卒業生（同窓生）の参加数が伸び悩んでおり、今後、内容の検討やホームページの活用等を考え、参加者の増加を目指したいと思っています。今回の特別講演は、熊本大学発生医学研究所の中尾光春教授に「エピジェネティクスと環境記憶」と題してご講演をお願いしました。発生医学研究所は、保健学科の隣のキャンパスにあり歩いて3分の距離ながら、なかなかお互い中身が判らない状況でした。今回、中尾教授から遺伝子の働きや老化のメカニズムの興味深いお話をお聞きして、発生医学研究所の一部が見えた気がします。今後も、特別講演には、いろいろな分野の方をお呼びできればと思っています。前回は熊本地震を内容とした特別企画でしたが、今年は元の企画に戻して、看護、検査、放射の各卒業生による職場紹介を行いました。参加した学生さんから好評を得ていますので、今後も連続企画にしたいと思っています。

平成29年6月17日に第4回九州連合同窓会が宮崎市のMRT Miccで開催されました。12月2日には第7回東京連合同窓会が東京ガーデンパレスで開催されます。保健学科同窓会は、地元熊本では7月第1土曜日で毎年開催されますが、熊本以外に就職された卒業生には、参加はなかなか難しいと思います。連合同窓会は、東京と関西が隔年（来年は大阪で）、九州は毎年で開催場所が隔年で熊本と他県の開催となります（今年は宮崎、来年は熊本）。熊本以外にお住まいの皆様、是非参加してみてください。熊本の外で、同窓会の輪（和）が広がることを期待します。

本同窓会の運営は、新入会時の永年会費とご寄附が財政基盤となっています。この紙面をお借りして、ご寄附された会員、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。同窓会として毎年の卒業生による会員増加は嬉しいことなのですが、財政的には厳しい面もあり、今後ご寄附に頼らなければなりません。図々しいお願いで恐縮なのですが、是非とも、ご寄附をお願いできますと幸甚です。

同窓会としましては、例年、総会と懇親会の開催や会報の発行等を行っていますが、総会・懇親会への参加者は、同窓会員数（約7600人）と比べると微々たるものです。役員一同、まずは、「人が集まる」魅力ある同窓会を目指し考えますが、なかなか良い知恵が出てきません。是非、会員の皆様の率直なご意見、時には「わがまま」もお聞きできれば助かります。皆様のニーズが、同窓会の方向性を決め、魅力ある同窓会につながるとしています。是非、遠慮なく、同窓会へ「わがまま」を言って下さい。今後とも、同窓会をよろしく願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

保健学科の現況とお願い

大学院保健学教育部長・保健学科長 吉 永 一 也

同窓生の皆様にはご健勝のことと存じます。

昨年4月の熊本地震は、保健学科の建物や設備にも大きな被害をもたらしましたが、関係各位のご支援により、早期に教育研究活動を再開することができました。改めまして、感謝と御礼を申し上げます。

私は、今年度末で2期4年間の任期を終えます。この間、全職員協力のもと教育研究環境の充実・改善に取り組んだ結果、講義室改修、エレベーター新設、敷地内全面禁煙化、大学院入学定員増を実現することができました。国際化関連では、タイ・ナレスアン大学との学術交流協定を締結、また現在、学部留学生の受け入れ計画を進めています。部局配分予算の減額に加え、教員定員削減など保健学系を取り巻く環境が急速に厳しさを増す中、今後も教育研究の充実・高度化や地域貢献・国際貢献の推進により、保健学科／大学院保健学教育部の存在感を高めていかねばなりません。そのために、また後輩の学生諸君がより良い学生生活を送るためにも、多くの皆様からのご支援が必要です。

昨年から『熊本大学基金』のカテゴリーに、「医学部保健学科教育研究支援事業」が新設されました。皆様のご寄付は、学生支援（学習環境整備、海外派遣・学習活動支援）、教育・研究助成支援、教育・研究施設整備の費用に大切に使用させていただきます。温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

同窓会の発展並びに同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。



在校生の寄稿

人との出会い

看護学専攻4年 坪井彩香

大学生活では、ご教授頂いた先生や臨地実習でご指導頂いた医療者の方々、また部活動や学校生活を共にした同僚、臨地実習にて受け持たせて頂いた患者さんやご家族など多くの人と出会いました。出会った方々の様々な考え方や人生観に触れ、今の私の成長に繋がられていると思います。

大学入学前の私は物事の良い面ばかりを見る傾向にありました。大学生になり多くの人と関わるようになり、またその方々の年齢層が幅広くなることで、他者の思考や行動に至るまでの様々な背景や複雑な状況から、物事の捉え方や感情の表出、人生観に多く触れました。他者の醜い感情を見ることは自分自身、苦しい時もありますが、背景を知るからこそ様々な側面を持つ人間らしいありのままの相手や自分を受け入れられるようになってきました。多くの人との出会いが、私の人間性を成長させ

てくれていると感じます。

臨床において患者さんを看護するためには、患者さんの理解やお互いの信頼関係が必要です。患者さんにとって最も身近な存在である看護師は、医学的知識や技術だけでなく人間性も求められていると考えます。一人の人として患者さんに寄り添い、患者さんの人間性を理解することができたとき「この人になら…」と安心感を持って頂き、信頼関係を築くことができると考えるからです。

そのために私は、人が健康や病を生き抜いている意味を理解できる人間性も兼ね備えた看護師になりたいです。今までの出会いも、これからの出会いも一つ一つ大切に人間性を養っていききたいと思います。

同窓会に参加して

放射線技術科学専攻 4年 久保田貴大

今回、私は保健学科同窓会・懇親会に参加しました。各専攻の在学学生を対象とした病院紹介があり、熊本地域医療センターの診療放射線技師の方がご紹介くださいました。病院全体のことから各モダリティまで、就職活動前に貴重なお話を伺えて良かったです。

特別講演では、熊本大学発生医学研究所細胞医学分野の中尾光善教授が「エピジェネティクスと環境記憶」についてご講演くださいました。体質の形成は遺伝子が全てではなく、環境によっても遺伝子の働きが変わるとのことで、遺伝と環境が働きあうのだと伺いました。ランナーが若く元気な人が多いのは、運動や寒さ、空腹などの環境によりエピゲノムの改善（ミトコンドリアを活性化する習慣）ができてることが要因の一つとのことでした。私は、大学3年間に3回フルマラソンを走るほどランニングが好きなのですが、4年生になってほとんど走っていません。社会人になって、また上手く時間を作って走りたいと思いました。

その後の懇親会では、普段お世話になっている先生方や病院で働いている先輩方と、お話することができました。病院実習でお世話になった方に改めてお礼をお伝えでき、実習中には話さなかったことを、たくさんお話しできてうれしかったです。

同窓会に参加したことで、先輩方が私たち学生のことを考えてくださっていることを感じるすることができました。これからも、後輩たちに是非参加してもらえたらと思います。

病院実習で学んだこと

検査技術科学専攻 4年 大石奈保子

先日、熊本国立病院と済生会病院で病院実習を行い、多くのことを学んできました。今までは、ただ、学校の授業で先生から教わった知識をひたすら詰め込んできましたが、この2か月の実習の中ではその知識が実際の臨床現場と結びつく感動や、知識だけでは補えない生理検査の手技的な部分、患者さんとの接し方などを肌で感じることができました。また、現場で実際に働いている技師さんたちの話を聞いたり、見たりする中で、今まで漠然としていた自分の目指す検査技師像が少しずつ形作られ、病院で検査技師として働きたいという思いが強くなりました。医師の指示のもとで検査を行うのが私たち検査技師の仕事ですが、ただ正確なデータを出すだけでなく、医師の診断や治療方針の決定に少しでも携われるような結果の出し方をしたいし、何より患者さんのことを第一に考えられる技師になりたいです。そのためにも、残りの大学生活を有意義なものにしていききたいと思います。

将来の選択肢を広げた大学院

大学院保健学教育部 博士前期課程 2年 柏昂希

私は、2016年3月に熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻を卒業後、同年4月に熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程へ進学しました。

大学を卒業した同級生が診療放射線技師として働いている中、私は、診療放射線技師ではなく企業への就職を決めました。もともと大学に入学した当時は、診療放射線技師だけが就職先と考えていましたが、大学で開催された企業説明会で病院ではなく企業への就職も可能であることを知りました。私は、中学生の頃から診療放射線技師にあこがれ、目指してきました。そんな中、なぜ企業への就職を決めたかということ、大学院での研究などを通して、より専門的分野で活躍したいと考えるようになったからです。大学院では核医学の放射性薬剤に関する分野の研究を行っています。就職活動が近づくにつれ、その分野に関わる仕事がしたいと考えるようになり、関連する会社の説明会に参加し、内定を頂きました。大学院に進学したことは、自身の将来の選択肢を広げるためにも良かったと感じています。病院での技師とは違い、必ずしも診療放射線技師免許が生かされるわけではないですが、それ以外にも学生時代に学んだことは多いです。それをしっかりと生かし、高い目標をもって取り組んでいきたいと考えています。

卒業まで残り約半年となりましたが、学生生活に悔いが残らないよう、また社会人になる準備期間として、これまで以上に邁進していききたいと思います。

職場紹介

社会医療法人社団高野会 高野病院

熊野友美子（保健学科看護学専攻10期）

現在の高野病院の病床数は全部で166床（一般病棟113床＋地域包括ケア病棟53床）あり、移転後は緩和ケア病棟も作られる予定である。医師は21名、看護師・准看護師は140名在籍している。疾患の種類として、3大肛門疾患と言われる痔核、痔瘻、裂肛、大腸がん・胃がん・その他の消化器がん、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）、NIS、胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア、過敏性腸症候群、前立腺がん、尿路感染症などがある。入院患者数は約43000人/年である。内視鏡検査件数はGIFが2300件/年間（9件/日）、TCS:7600件/年間（30件/日）、SCSが2300件/年間（9件/日）ほどである。これとは別に健診車を使って、契約した市町村やJA、企業まで行き便潜血検査や内視鏡検査をしている。手術件数は腰麻下手術が1700件/年間（7件/日）で痔の手術が主である。全麻下手術は250件/年間（1～2件/日）で大腸がんが主である。

看護職は看護師と准看護師が140名在籍している。患者様は急性期～慢性期までの全身麻酔下の手術を行う人もいれば化学療法で入院する人と様々な状況の方がおり幅広く看護を学ぶことができる。勉強会も短時間だが月に何回かある。他の病院に比べると、見学して、先輩と一緒に実施し、一人立ちという三段階で実践するのでどんどんやれることが増えていく。一人で患者を受け持つのも早いので責任は重要になるが、回数を重ねることで自信がつくのも早いと感じる。看護体制は、固定チームナーシングとプライマリーナーシングで8月より2交代勤務になる予定である。

最後に志望動機として、やるからには何かを極めたいという思いがあった。そんな時、多くの病院が参加する病院説明会で、高野病院の看護部長さんとお話したことが一番印象に残った。専門性に特化している病院であること、笑顔の接遇を重視していることを聞いて、ここで働きたいと思った。来年もたくさんの新人が入ることをスタッフ一同楽しみにしている。

一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター

福島敏和（医療技術短期大学部診療放射線技術学科8期）

私が勤務しています「熊本地域医療センター」は、熊本市医師会立の病院で、今でこそ医療界においては当然の仕組みの「病診連携」に開設当初から着手した先見性のあった病院です。昭和56年（1981年）11月1日に誕生し今年で36歳を迎えます。

「かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。そんな病院をめざします。」という病院理念の実現に向け、患者様と地域の為に医療サービスの質を高め、職員一同頑張っています。熊本地域医療センターの役割としては

①紹介型外来 ②共同利用・開放型病院 ③高度医療 ④救急医療 ⑤教育・研修 の5つの柱があります。

また、皆さんご存知かと思いますが、熊本市からの委託事業として休日夜間急患センター（内科、小児科、外科）としての業務を行っております。出勤協力医制度と云うものがありまして、熊本市（一部熊本市外）医師会員の医師および熊本大学の医師、熊本県外の医師等が診療にあたっています。平日日勤帯の時間に関しましては、休日夜間急患センターとは別に、紹介状をもたずに受診される患者様や、救急車で来院される患者様の初期対応・初期治療には当院救急部が対応しています。

話は変わりますが、最近の当院のトピックスとして、まず「働きやすい病院評価（ホスピレート）認証」を取得しました。「当院に勤務するすべての医療従事者が働きやすい病院である」として第三者機関に認められたわけです。次に私が所属しています放射線部に関しましては、「医療被ばく低減施設認定」を取得しました。この医療被ばく低減施設とは、公益社団法人日本放射線技師会が「安心できる放射線診療」を国民の皆様を提供することを目的とした事業として医療被ばく低減に努めている施設を認定するものです。認定を取得するのは結構大変で時間もかかりました。当院放射線技師全員が一丸となり頑張った成果だと思っています。例えば、当院独自にポケットマニュアルを作成し、簡単な被ばくについての質問があった場合などにはすぐに対応できるよう、放射線技師全員が携帯したりもしています。「患者様の被ばくを日本1気遣う病院」を目指し、私たち熊本地域医療センター放射線技師はこれからも努力して参ります。

熊本赤十字病院 検査部

田中亜希子（保健学科検査技術科学専攻8期）

熊本赤十字病院検査部は、生理検査センターと検体検査センターに分かれており、約20年前よりランチラボを導入しています。ランチとは、検査業者が病院の検査施設の一角を利用し、検体検査のために機器・試薬を持ち込むとともに、自社の職員をその業務に従事させるものです。当院では株式会社SRLの検査技師が輸血検査を除く検体検査業務をおこなっています。

私が所属する生理検査では、心電図や心臓超音波、トレッドミル、脳波、肺機能検査など様々な検査をおこなっており、検査担当が決まっておらず、全検査を全員でするやり方でルーチン業務を施行しています。1年目は心臓超音波以外の生理検査を1人でできるようになり、2年目以降は心臓超音波を中心にエコー技術を磨き、4年目に認定超音波検査士の資格取得を目指す教育プログラムが組まれています。

また、時間外や休日においても、緊急の検査や輸血がスムーズにおこなえるよう、病院技師1名、SRL技師1名の当日直体制で対応しています。

留学体験記

田崎 雅義

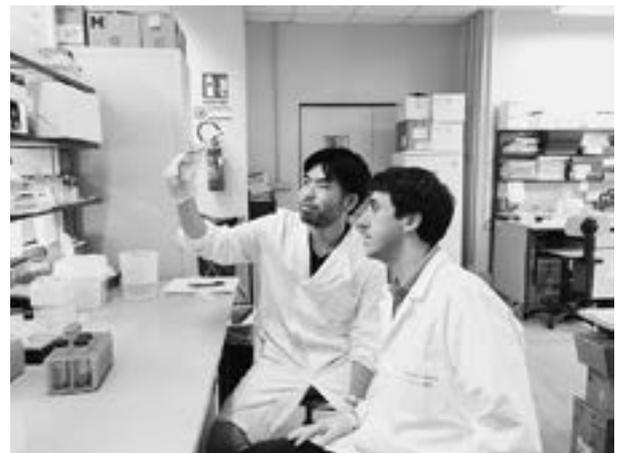
(熊本大学大学院生命科学研究部構造機能解析学分野／保健学科検査技術科学専攻2期)

2017年3月から、イタリアのPavia大学 Molecular medicine 教室で研究留学をしております田崎雅義です。こちらに来て早6ヶ月が経ちました。はじめは、買い物の仕方やバスの乗り方などわからないことばかりで、戸惑う毎日でした。しかし、人は不思議なことにすぐに異なる環境に順応でき、今では、一日2回のエスプレッソコーヒーが欠かせません（同僚はコーヒーを5杯も飲みます）。Pavia はミラノから電車で30分のところにある静かで赴きのある学園都市です。Pavia大学は、1361年に設立された歴史のある大学で、医学の発展に寄与された多くの先生方がこの地で活躍されました。レオナルド・ダ・ヴィンチは解剖を行い、カミッロ・ゴルジは、ゴルジ体を発見しました。本研究室を主催されている Giampaolo Merlini 教授は、アミロイドーシスおよび臨床化学の分野で非常に著名な先生です。本大学の研究部長でもあり多忙ですが、いつも会いに来てくださり、研究やイタリアでの生活の話をしています。現在、私は、アミロイドーシスの病態解析および診断法の開発に関する研究を行っております。毎日、得られた結果に対して同僚とディスカッションし、充実した日々を過ごしています。週一回ある研究ミーティングでは、Merlini先生を含む全員でディスカッションし、研究の質を高めていきます。こちらに来て驚いたことは研究室間の垣根が低いということです。研究をされていて困ったことがあるとすぐに専門の先生に連絡し、共同研究を開始します。このような研究室間の関係性が質の高い成果を生む要因のひとつのように思いました。同年代の志の高い同僚にも恵まれ、将来的に国際共同研究が続けられるよう、現在、一緒にセットアップしています。

週末には、家族とともにジェノバやミラノなどに出かけ、イタリアの食や文化を楽しんでおります。また、友達の家遊びに行き、一緒にBBQをすることもあります。

最後に、海外で勉強する機会を与えていただきました保健学科の諸先生方に厚く御礼申し上げます。諸先生方のように、医学の発展に資する研究ができるようイタリアで尽力致します。また、この経験を保健学科での研究や教育に活かせるよう努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

Ciao!



職場のある San Matteo 病院

第14回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成29年7月1日（土） 14:00～17:00

場 所 熊本大学医学部保健学科E506（5F）

出席者数 37名

議 長 羽手村昌宏先生（熊本大学医学部附属病院）

<総会式次第>

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学教育部長挨拶

議長選出

議事

1. 平成28年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

2. 平成29年度事業計画（案）

3. 平成29年度予算（案）

4. その他

閉会の辞

【議事要旨】

14時、井村幹事より開会が告げられ第14回同窓会総会



が開会された。

最初に、橋田昌弘会長が会を代表して挨拶を行い、続いて吉永一也熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、羽手村先生（熊本大学医学部附属病院）が総会議長に選出され、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 平成28年度事業報告及び会計に関する報告

橋田昌弘会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第12号発行、第13回同窓会連合会への参加、卒業生表彰、名簿作成等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より28年度の会計について決算状況が報告された。その後、右田監事より平成28年3月27日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後賛成多数で平成28年



総会風景

度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 平成29年度事業計画（案）について

橋田昌弘会長より、平成29年度事業計画（案）について説明があった。

3. 平成29年度予算（案）について

平成29年度予算（案）について松本会計幹事より説明があった。昨年度からの変更は、名簿作成費用が今年度はなくなった旨の説明があった。また橋田同窓会長から同窓会名簿作成に関する説明が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で平成29年度事業報告（案）、平成29年度会計予算（案）は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、春田副会長よりと閉会の挨拶があり、同窓会総会は、14時26分に終了した。

次に各専攻の紹介において、看護学専攻 熊野先生、放射線技術科学専攻 福島先生、検査技術学専攻 田中先生から各専攻紹介が行われた。

最後に特別講演として熊本大学発生医学研究所 中尾光善先生より「エピジェネティクスと環境記憶」と題した講演会を行い、その後、懇親会が行われた。

平成29年7月1日

議事録署名人 大野 剛

懇親会風景



特別講演

「エピジェネティクスと現代人の体質学」

中尾 光善 教授 (熊本大学発生医学研究所)

「体質」とは、顔かたちが違うように、一人ひとりがおもつ身体の特徴であると言えます。「個人差(個体差)」、その人の個性でもあります。日本人の「体質」について取り組んだ研究者として、元京都帝国大学の足立文太郎(1865~1945年)が挙げられます。血管・筋肉・皮膚などの解剖学者、そして人類学者。日本人だけでなく、ヨーロッパ人についても解剖学的な特徴について比較研究を行い、その成果は「日本人の動脈系」、「日本人の静脈系」、「日本人のリンパ系」という3部作にまとめられています。とりわけ、「Adachiの分類」(腹腔動脈の分枝に関する形態学的な分類)は広く知られるものでしょう。健康体でも、多くの人にみられる正常型、それとは異なる変異型があることを報告しました。さらには、身体の特徴として、耳垢や体臭に関する人種間の比較研究を行っています。

本講演では、「体質」を「身体の全体をまとめた性質」としました。いわば、身体各部分がおもつ特徴を合わせた総和になります。注目したいことが2つあるように思います。まずは、身体各部分を別々に調べても見えない総合的な性質があることです。全体としては見えても、部分に分けると消失してしまうのです。さらには、体質には、「氏と育ち」という両面があることです。生まれながら備わるものがあれば、その一方、ある年齢になってはじめて現れるものがあります。つまり、遺伝が強く働くもの、生活環境のなかで新たに生じるものがあります。すなわち、体質とは、遺伝と環境が働き合った結果であると考えられます。

近年、英国のデビッド・バーカー博士らによって、低出生体重児(2,500グラム未満)は成人期に心疾患、2

型糖尿病や肥満などに罹りやすいという報告がなされてきました。胎児期の低栄養が記憶されるという意味から、「成人病の胎児期起源説」(代謝メモリー)、最近では「DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) 学説」として注目されています。

私たちの身体は、基本的にゲノムに書き込まれた遺伝情報にしがたってつくられています。「ゲノム」(設計図)を辞書に例えるなら、「遺伝子」はそこに書かれた単語のようなものです。ところが、単語を無闇やたらに並べても意味をなしません。辞書の中から単語を選んで、意味のある文章を作ることが肝要です。これと同じように、ゲノム上の遺伝子を選んで使うという、遺伝子の使い方が重要になります。身体を構成する細胞の中では、使う遺伝子と使わない遺伝子に印がつけられています。この印をつけたゲノムを「エピゲノム」と言います。生活環境によって、エピゲノムが変われば、細胞の性質は換わるでしょう。そして、身体部分である細胞が変われば、全体にも影響を与えることでしょう。

本講演では、私たちの最近の「エピジェネティクス」研究を紹介するとともに、現代の生命科学から体質のメカニズムについて読み解いてみました。

【参考図書】

- ・「驚異のエピジェネティクスー遺伝子がすべてではない!? 生命のプログラムの秘密」
- ・「あなたと私はどうして違う? 体質と遺伝子のサイエンスー99.9%同じ設計図から個性と病気が生じる秘密」(羊土社、2014/2015年)



熊本大学卒業生表彰

第6回熊本大学卒業生表彰式が執り行われました。熊本大学の発展または社会からの理解促進につながる多大な貢献のあった卒業生に対し、その功績を学長より称えられます。保健学科同窓会の推薦により以下の方々が表彰されました。

齋藤 忍様（医学部附属診療放射線技師学校 昭和47年卒）

杉内博幸様（医学部附属衛生検査技師学校 昭和45年卒）

昨年度の第5回熊本大学卒業生表彰式の写真を掲載しております。前号でお知らせしております看護学専攻の木村眞知子様、内布敦子様が表彰を受けられました。



第6回卒業生表彰者（平成29年度）



第5回卒業生表彰者（平成28年度）



国家試験合格状況

平成29年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率 （%）	受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率（%） （うち新卒者）
看護師	24	67	67	100.0	56,530	50,224	88.8
	25	68	68	100.0	58,891	52,900	89.8(95.2)
	26	70	69	98.6	60,947	54,871	90.0(95.5)
	27	69	69	100.0	62,154	55,585	89.4(94.9)
	28	66	66	100.0	62,534	55,367	88.5(94.3)
保健師	24	72	71	98.6	16,420	15,764	96.0
	25	73	73	100.0	17,308	14,970	86.5(88.8)
	26	74	74	100.0	16,622	16,517	99.4(99.6)
	27	28	28	100.0	8,799	7,901	89.8(92.6)
	28	19	19	100.0	7,590	7,172	90.8(94.5)
助産師	24	13	13	100.0	2,113	2,072	98.1
	25	12	12	100.0	2,079	2,015	96.9(97.6)
	26	10	10	100.0	2,037	2,034	99.9(99.9)
	27	16	16	100.0	2,008	2,003	99.8(99.8)
	28	13	12	92.3	2,053	1,909	93.0(93.2)
診療放射線技師	24	35	31	88.6	2,426	1,615	66.6
	25	35	34	97.1	2,907	2,224	76.5(89.9)
	26	42	39	92.9	2,839	2,094	73.8(85.2)
	27	37	34	91.9	3,016	2,377	78.8(90.9)
	28	35	34	97.1	2,939	2,511	85.4(96.0)
臨床検査技師	24	39	34	87.2	4,097	3,162	77.2
	25	41	40	97.6	4,148	3,368	81.2(94.3)
	26	37	36	97.3	4,298	3,528	82.1(93.8)
	27	47	43	91.5	4,400	3,363	76.4(87.4)
	28	34	31	91.2	4,739	3,729	78.7(89.9)

平成28年度卒業生の進路状況

H29.4.14

看護学専攻（卒業生66名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	18
熊本赤十字病院	熊本県	9
高野病院	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	3
医療法人社団愛育会 福田病院	熊本県	2
熊本県庁	熊本県	1
熊本市役所	熊本県	3
九州大学病院	福岡県	6
福岡県庁	福岡県	1
医療法人社団尚和会エンゼル病院	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	3
宮崎県庁	宮崎県	1
昭和大学病院	東京都	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
日本大学医学部附属板橋病院	東京都	3
神奈川県立がんセンター	神奈川県	1
大阪医科大学附属病院	大阪府	2
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都	1
板橋中央総合病院	東京都	1
エキップ	熊本県	1
就職小計		61
(進学)		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	4
進学小計		4

放射線技術科学専攻（卒業生35名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
熊本脳神経外科病院	熊本県	1
くまもと森都総合病院	熊本県	1
浜の町病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
大分県厚生連鶴見病院	大分県	1
宮崎県病院局	宮崎県	1
社会医療法人北九州総合病院	福岡県	1
社会医療法人博愛会 相良病院	鹿児島県	1
琉球大学医学部附属病院	沖縄県	1
山口大学医学部附属病院	山口県	2
公益財団法人天理よろづ相談所病院	奈良県	1
大阪府立病院機構	大阪府	2
横浜新緑総合病院	神奈川県	1
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
横浜労災病院	神奈川県	1
就職小計		20
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	10
研究生・科目等履修生	熊本県	1
筑波大学大学院システム情報工学研究科	茨城県	1
他大学進学		1
進学小計		13

検査技術科学専攻（卒業生34名）		
(就職)		
熊本赤十字病院	熊本県	2
ソフィアレディースクリニック水道町	熊本県	1
国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院	熊本県	1
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	熊本県	1
国保水俣市立総合医療センター	熊本県	1
福岡赤十字病院	福岡県	2
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
社会医療法人天神会	福岡県	1
古賀総合病院	宮崎県	1
日本赤十字社長崎原爆病院	長崎県	1
社会医療法人財団池友会 新行橋病院	福岡県	1
佐賀中部病院	佐賀県	1
善仁会病院	宮崎県	1
社会医療法人善仁会市民の森病院	宮崎県	1
相良病院	鹿児島県	1
今給黎総合病院	鹿児島県	1
宮崎県	宮崎県	1
島根大学附属病院	島根県	1
洛和会ヘルスケアシステム	京都府	1
医療法人社団高邦会高木病院	福岡県	1
自営業		1
就職小計		23
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	7
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	1
進学小計		8



保健学科教員紹介

(平成29年10月現在、五十音順)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：前田ひとみ
 准教授：松本智晴
 講師：永田まなみ
 助教：有松 操 南家貴美代

【臨床看護学講座】

教授：宇佐美しおり 河野宏明 國府浩子
 三笠里香
 准教授：柘中智恵子 中尾富士子
 助教：小瀨京子 樋口有紀
 福山美季 宮崎志保

【母子看護学講座】

教授：田代浩徳
 准教授：坂梨京子
 講師：生田まちよ 寺岡祥子
 助教：島田久仁子 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代
 准教授：安武 綾
 助教：松本佳代 松本千晴

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学分野】

教授：白石順二 富吉勝美 船間芳憲
 准教授：内山良一 米田哲也
 助教：大野 剛 辻田直子

【医用画像学分野】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二
 村上龍次
 講師：藤原康博

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学分野】

教授：大林光念 柳沼裕二 吉永一也
 講師：伊藤雅浩
 助教：田崎雅義 橋本弘司

【生体情報解析学分野】

教授：乾 誠治 大坪和明 大森久光
 奥宮敏可 畑 裕之 三森龍之
 助教：梶原隆太郎 森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名

- 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員を選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
- 4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

編集後記

大学に程近い公園の桜の木を覚えていらっしゃいますか？学生の頃は、小さかったという方もいらっしゃるかも知れません。今ではその桜も大きくなり、花の咲く頃はとても綺麗で、花見客も多く賑わいます。公園から少し目線を移すと、かつての学び舎があります。地震を経てもなお昔と変わらぬ佇まいです。

本会報は、在校生や同窓生、同窓会活動の近況をお伝えたく、年1回お送りしております。ご寄稿くださいました方々、同窓会活動にご支援いただいた皆様方へ、心より感謝申し上げます。

保健学科同窓会役員：

井村昭寛 梶原隆太郎 島田久仁子 辻田直子

平成29年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

名誉会長：吉永一也（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）

会 長：橋田昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

副 会 長：肥合康弘（帝京大学福岡医療技術学部）

春田昭一（済生会熊本病院）

理 事：

（看護） 田中シゲ子（旧医療技術短期大学部教員）

本尚美（熊本大学医学部附属病院）

田中紀美子（九州看護福祉大学）

小菌真知子（熊本保健科学大学）

大澤早苗（熊本保健科学大学）

宮里邦子（九州看護福祉大学）

（放射） 荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）

和田博文（済生会熊本病院）

大野剛（熊本大学医学部保健学科）

（検査） 増永純夫（熊本中央病院）

前田浩（熊本市市民病院）

中村直子（熊本大学生命資源研究・支援センター）

幹 事：

（看護） 井村昭寛（熊本整形外科病院）

島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）

（放射） 辻田直子（熊本大学医学部保健学科）

（検査） 田崎雅義（熊本大学医学部保健学科）

梶原隆太郎（熊本大学医学部保健学科）

高島裕子（元熊本大学医学部附属病院）

会 計：松本佳代（熊本大学医学部保健学科）

吉田佳代（熊本大学医学部保健学科）

監 事：右田香魚子（元熊本大学医学部附属病院）

木村真知子（元熊本大学医学部附属病院）

東京連合同窓会幹事：

松下洋一（株式会社バイオトクステック）

九州連合同窓会幹事：

春田昭一（済生会熊本病院）

松本佳代（熊本大学医学部保健学科）



看護職員募集 熊本大学医学部附属病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と活き活き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊大病院で看護をしてみませんか。
詳細はホームページをご覧ください。

